

様式1－1 地域子育て支援拠点事業評価シート

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題		自己評価(A~D)		
	法人	区	法人	区	
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	多様な生活背景の養育者と子どもが孤立しないよう改めて周知活動を強化する。また、関係機関との連携をさらに進め利用のきっかけづくりを工夫する。	A	A		
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A		
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A		
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	B		
☆各地域の様々な場所で親子の居場所を提供している。		A	B		
評価の理由(法人)					
(主なデータ)					
■年間利用者数(人)					
利用者数	わっくんひろば	令和4年度 12797	令和5年度 14765	令和6年度 15749	
	わっくんひろばサテライト	10449	11542	10483	
	合計	23246	26307	26232	
内訳	父親	978	1343	1426	
	プレママプレパパ	235	286	297	
■令和6年度 出張ひろば					
	エリア	回数	人数		
	矢向・市場	3	144		
	鶴見中央	1	32		
	潮田・生麦	3	91		
	駒岡・末吉	2	42		
	寺尾・馬場	3	60		
	合計	12	369		
■令和6年度 父親向け子育て支援イベント、相談					
	回数				
パパと一緒にベビーマッサージ	4				
パパと一緒にベビーのためのタッチケア	4				
パパのための相談日	12				
パパ講座	2				
プレパパと先輩パパの交流会	1				
■令和6年度 妊娠期から切れ目のないプログラムの実施					
	回数				
プレママプレパパの会	23	258			
プレママと先輩ママの交流会	3	18			
プレパパと先輩パパの交流会	1	7			
赤ちゃんあつまれ!	12	178			
赤ちゃん体操とママストレッチ	8	89			
ベビーマッサージ	7	117			
パパと一緒にベビーマッサージ	4	56			
ベビーのためのタッチケア	12	180			
パパと一緒にベビーのためのタッチケア	4	47			
ちっちゃな人形劇	11	241			
読み聞かせ	36	927			
手遊びわらべうた	28	467			
お出かけわっくん	9	369			
工作の会	12	145			
■令和6年度 ピアサポートイベント					
	回数				
陽だまりんの会(極低体重出生児)	3	44			
ダウン症のお子さんの親の会	11	72			
発達が気になる子の親の集い	11	37			

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

1. 溫かく迎えられ、安心して気軽に自分らしく利用できる場づくり

○初めてでも安心して利用ができ、繰り返し利用する中で交流が広がっていくひろばづくり

・初めての利用でも参加しやすいイベントを開催し、利用者同士の交流を通して孤立感の解消に務めた。

・各イベント内に交流の時間を設け、利用者同士が関係性を築けるような場を提供した。

・横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」、横浜市地域子育て支援拠点サイトの登録方法をわかりやすく伝え、安心して利用できるように一人一人に寄り添って対応した。

・遊び場、情報収集、相談だけでなく、仲間づくりや子サポの登録、預かりの場、ボランティア、また図書の貸し出しやリサイクル品の授受、お祝い着のレンタルなどの多様な利用ができる場を提供している。

・個別の事情によりひろばの利用をためらう利用者には拠点以外の場の利用の提案をしている。

・公園遊びや地域の方とゆったり遊べる、ふらっとるーむ等の場の提案をしている。

・「ちょっとよりみちタイム」として利用時間外でも工作キットのお渡しや絵本の貸出、お譲り品の授受をしている。

○運営体制の改善のための継続的な取組み

・月2回のひろばミーティングで日々の運営上の気づきや課題を共有している。

・月1回の全体ミーティングでテーマごとに課題を検討し、対応策を協議している。

・毎日のミーティングを通して、業務確認や情報共有も行い、よりよいひろば運営につなげている。ひろば業務以外の活動についても情報を共有することで、スタッフがさまざまな情報に触れる機会となり、それがひろばでの会話や情報提供に役立っている。

2. 多様な人々が訪れ交流する場づくり

○妊娠期から多世代が利用しやすい子育て支援の取組み

・妊娠期から切れ目のない世代が利用できるイベントを開催している。

・令和6年度より横浜市が運営する「パマトコ」、拠点サイトの周知に努め、登録を推進した。多言語対応のため、多様な養育者が利用しやすい形になっている。

・幅広い世代の利用を促すために、大型遊具や人気の玩具、工作遊びを準備し、多様な遊びを紹介している。

・父親向け子育て支援イベントや相談日を開催し、父親の育児参加を促進するとともに、相談しやすい環境づくりに努めている。

○ピアサポートイベントの実施を継続

・継続して実施したことによりピーターも増え、養育者同士の居場所となるとともに、ピアサポートイベントを通じて互いの経験や悩みを共有し、支え合う関係づくりが進んでいる。

・参加者全員が発言しやすい場を整えるとともに、開催前のリマインドや開催後の個別フォローを行うことで、リピーターの増加につながっている。

○外国につながる親子への丁寧な対応の継続

・ポケトークの整備や、やさしい日本語での声かけを通して情報提供等を行い、イベント参加などに繋がった。

・国際交流ラウンジと連携したイベントを実施したことで、イベント参加者とひろば利用者の交流が生まれ、相談しやすい環境整備につながることができた。

・相談やイベントの際に必要な場合は通訳を準備した。

・区役所担当保健師との拠点スタッフミーティング研修を通じて、区内の外国につながる家庭の現状を知ることができた。

○ひとり親を対象とした取組みを開始

・シングルママおしゃべり会を企画し、交流や情報共有の場を提供することで、孤立感の軽減や支え合いの促進を図っていく。

・こども食堂などの情報を分かりやすく掲示し、ホームページにも掲載することで、地域の社会資源の周知と利用促進に努めている。

・保育園情報や関連資料を配架し、ひとり親家庭が必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。

○子育てサポートシステムのひろば預かりの促進

・子育てサポートシステムの預かりの場として、地域の担い手たちの活動の場となっており、その活動の様子を目にすることで、利用者の安心感や預けやすさにもつながっている。

様式1－1 地域子育て支援拠点事業評価シート

3. ニーズを把握するために

○子育てアンケートを実施

・区と共に、鶴見区子育てアンケート調査を実施し現状を把握、利用者ニーズに基づいた対応策について継続的に協議を進めている。

・毎年拠点アンケートを実施し、養育者のニーズを把握するとともに、得られた声を事業や支援内容の見直しに活かしている。

・交流を中心としたイベントでアンケートを実施し、参加者の声を運営に活かすことで、より満足度の高い内容へとつなげている。

(「プレママプレパパの会」「パパ講座」「プレパパと先輩パパの交流会」「これからの私、なりたい自分」「アラフォーママのおしゃべり会」)

4. 様々な人々の中で親と子が育っていくひろば

○年齢に応じた支援と親の学びを促進する子育て環境の整備

・年齢に応じたイベントや環境の整備を通して子どもの育ちに寄り添っている。

・親向け講座の実施(発達講座、保育士講話、看護師講話、消防士講話、ハローワーク講座)

○地域連携によるピアサポートイベントの実施と親の学びの促進

・「発達の気になる子の親のつどい」は地域ケアプラザ、地域活動ホームと連携

・「陽だまりんの会(極低出生体重児の会)」は、済生会東部病院のNICU看護師、理学療法士と連携

・「ダウン症のお子さんのママのおしゃべり会」は、地域の担い手が毎回参加

○ひろばでの継続交流による親子の成長と社会的つながりの促進

・ひろばを継続利用する中で、親子ともに他者との交流を通じて関わりが深まり、成長と社会的つながりの構築につながっている。

☆ 地域へと広がるひろば(出張ひろば)

○親子との出会いを広げる地域連携と出張ひろばの取り組み

・住まいが遠方のため拠点を利用しにくい養育者に出会うために、公園での出張ひろばを実施してきた。

・育児支援センター保育園、地域の関係機関も参加し、地域の遊び場やイベントの情報提供を行い、地域資源の利用の促進に協力した。

○親子が外遊びの楽しさ、大切さを実感する機会の提供

・簡単に作れる外遊び用の手作りおもちゃなどを活用し、外遊びの楽しさを伝えている。遊びを通して、親同士の交流も進んでいる。

・遊びの中で職員との交流が深まり、拠点利用のきっかけづくりにもつながっている。

・上記事業を区の外遊び促進事業と連動して実施するために、内容を検討し、改善を進めた。

様式1－1 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

1. 温かく迎えられ、安心して気軽に自分らしく利用できる場づくり
 - ・定例会やスタッフミーティング、日々の連携の中で居場所づくりについて話し合ってきた。
 - ・拠点を訪問したときは、明るい雰囲気で利用者を招き入れ、帰るときも次につながるような声かけをしている様子が見られており、所感を拠点にフィードバックしている。
 - ・利用者数の増加により、安全面の配慮がより求められる状況であることも、連携の中で共有し合っている。
2. 多様な人々が訪れ交流する場づくり
 - ・母子健康手帳交付時には、国籍や性別に関わらずすべての妊婦に子育て支援拠点を紹介するようチェック項目を設定し、周知している。転入時にも紹介している。
 - ・妊娠期からの支援では、母子保健コーディネーターと拠点が連携し、「プレママ・プレパパ会」の開催頻度や場所・時期などを毎年工夫を重ねている。父親の育児参加が増えていることを共有し、それにより父親の産後うつ増加の課題を共有している。
 - ・ダウン症児や低出生体重児、外国につながる親子、ひとり親家庭、多胎児など多様な人々に向けたテーマのイベントにつながるよう、地区活動や事業の中で参加を促している。
3. 養育者と子どものニーズの把握の場
 - ・利用者アンケートより、例えば拠点でのランチが再開した。アンケートだけでなく、生の声をコミュニケーションの中から拾い、ランチの希望が高いことを把握し、日数等を拡大している。定例会や日々のコミュニケーションの中から、ニーズに合わせ可能な限り実現していこうと話し合っている。
4. 様々な人々の中で親と子が育っていくひろば
 - ・養育者向けの様々な講座の実施にあたり、目的やターゲットなどを確認し、アドバイスを行っている。
 - ☆ 地域へと広がるひろば（出張ひろば）
 - ・「公園へいってみよう」のイベントと区役所の外遊び促進事業を連動するよう話し合いを行った。お互いの事業に参加することで、居場所・相談と学びの場が共存できるよう工夫した。

拠点事業としての成果と課題

（成果）

- ・個々に寄り添いきめ細やかに対応することで、継続的な支援や利用者の拡大（父親・ひとり親・外国人・発達が気になる子ども等）につながった。
- ・ひとり親やアラフォーママに向けた支援を開始し、多様な養育者を受け入れる場を提供した。
- ・アンケートを活用するとともに、日々のコミュニケーションのなかで声を拾い、利用者のニーズに合わせた活動を拡充した。（ランチの再開、プレパパ・プレママ会の実施回数の増加等）
- ・親向け講座の内容の充実化や、ピアサポートイベント参加への継続的な声かけ等をとおして、親自身の学びや交流の機会を促進した。

（課題）

- ・拠点の認知度低下の背景として、保育園利用者の増加が考えられる。プレパパ・プレママの早期からの支援を拡充するとともに、4か月児健康診査での紹介を継続的に行い、認知度向上につなげる。
- ・利用者数が増加すると、個に応じた丁寧な対応が困難になる。ヒヤリハットを共有し、今後もトラブルや事故の発生防止に努める。
- ・親向け講座では、母親の健康（妊娠糖尿病や乳がん等）について考える場を設定する等、内容のさらなる充実化を図る。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者（養育者、子ども、ボランティア等）の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	多様な養育者に対応するために、引き続きスキルアップに努める。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

■実績統計

	わっくんひろば			サテライト			合計		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ひろば相談	3536	4033	4028	3174	3229	3837	6710	7262	7865
個別相談	124	80	54	211	209	139	335	289	193
専門相談*	129	165	436	126	150	389	255	315	825
発達相談	13	7	12	—	—	9	13	7	21
女性相談	6	3	13	—	—	—	6	3	13

* 助産師、看護師、保育園の先生、保健師、栄養士、保育コンシェルジュ、離乳食・幼児食アドバイザー

■令和6年度 法人内スタッフ研修

「発達に躊躇がある子どもの理解とその保護者への支援」

「地域まるごとの支援ってなんだろう」

「人と地域をつなぐ身近な存在」

「虐待の現状と、地域の子育て支援・支援センター等の役割の重要性」

「支援センターでの課題・意見共有」

「ケース検討会」

■令和6年度 わっくんひろば・わっくんひろばサテライト利用者アンケート

	そう思う
スタッフは話しやすい雰囲気でしたか	99.5%
スタッフと話しながら子育ての相談をすることができましたか	92.9%
(専門相談を受けた方) 受けてみて良かったですか	98.0%

その他自由記載

- 必ず声をかけてくれるので孤独を感じたことがありません。
- 安心して過ごせる場所があって、母親の精神安定になっているようです。

様式1－2 地域子育て支援拠点事業評価シート

1. 相談しやすい環境づくりと支援体制の拡充

- 子育て支援拠点の相談機能強化と地域への周知・継続支援の推進
 - ・ひろばでは、利用者との適切な距離感を大切にしながら信頼関係を築き、どのような相談にも丁寧に傾聴・受容し、必要な支援につなげられるよう日々努めている。
 - ・出張ひろばなどを活用し、拠点から離れた地域の利用のない養育者にも相談や情報提供が届くよう工夫を行い、これをきっかけに拠点の継続的な利用につながっている。
- 子育て相談の周知強化と関係機関との連携による継続支援
 - ・拠点が「子どもと遊びながら気軽に子育て相談ができる場」であることを周知する取組を継続している。
 - ・専門相談および相談事業の周知は、拠点が持つさまざまな広告媒体を活用して行っている。
 - ・出張ひろばやネットワーク事業を通じて関係機関に相談事業のPRを行い、子育て支援拠点の相談機能について周知することで、継続的な支援につながっている。
- 日常的な関わりから育児相談支援への取り組みと専門支援体制の強化
 - ・スタッフとの気軽なおしゃべりから相談に発展するケースも多く、日常的な関わりが相談につながる土壌となっている。
 - ・保護者が安心して話せるよう、会話の雰囲気づくりについて全員ミーティングで「来所者へ話しかけるコツ」などテーマを設けて検討し、対応に活かしている。
 - ・ひろばでよく見られる相談内容の「熱中症対策について」や「トイレトレーニングについて」等については、保育士・看護師によるミニ講話として情報提供を行っている。ミニ講話を通して利用者の気づきにつながり、その後の個別相談ではスタッフがフォローし、育児の問題解決につながった。
 - ・離乳食の相談は関心が高いため、栄養士による離乳食相談を新たに開始した。
 - ・養育者の抱える多様な課題について、ミーティングの中で多角的な視点から検討し、学びを深めている。

2. 多様な相談への丁寧な対応と連携支援

- 相談支援から専門支援・ピアサポートへの円滑なつなぎとフォローワーク体制
 - ・相談者に対して必要な情報提供を行い、次の支援につなげている。
 - ・相談内容に応じて、専門相談、子育てパートナー、子育てサポートシステムなどを紹介している。
 - ・発達特性のある子どもについて希望があれば、発達相談への案内を行っている。
 - ・「発達が気になる子の親のつどい」「たんぽぽの会（ダウン症児の会）」「陽だまりんの会（極低出生体重児の会）」「シングルママのおしゃべりカフェ」など、ピアサポートイベントを紹介し、継続的な相談環境へつなげている。
 - ・ピアサポートに参加後のフォローとして、相談事業や専門相談など個別支援の利用を状況に応じ案内している。ピアサポートで解決できることと個別相談が必要なこと、それぞれの役割があることを丁寧に伝えている。
- 区との連携強化による相談対応体制の構築と地域特徴を踏まえた支援
 - ・区とのスタッフミーティングでは、ひろばスタッフと保健師が交流し、相談対応における連携体制を構築している。また、各地域特徴に関する理解を深め、地区担当保健師と情報交換を行い、地域に応じた相談対応に活かしている。
 - ・来所者の悩み事に寄り添った相談ができる場として、地域の子育て支援者や赤ちゃん会の利用を案内している。
- 相談対応力向上のための研修と日常業務を通じた組織的学び
 - ・相談対応スキルの向上に努めており、法人内外の研修に参加している。
 - ・子育てパートナーなど外部研修に参加した職員が、学んだ内容を全体で共有し、組織的な学びにつなげている。
 - ・外国につながる親子への対応をテーマに自主研修を実施した。
 - ・ひろばやピアサポートイベントで保護者の声に丁寧に耳を傾ける日々の経験が、職員のスキルアップにもつながっている。
- 関係機関との連携の強化
 - ・ネットワーク事業や利用者支援事業を通じて、鶴見区内の子育て資源（子育て支援施設、育児センター園、親と子のつどいの広場、乳幼児一時預かり施設等）との連携を深め、必要に応じて適切な機関につなぐ体制が整っている。
 - ・専門的な支援が必要と判断される場合は、相談者の同意を得た上で区とも連携し、専門機関につないでいる。
 - ・法人の強みを活かし、養育者の関心が高い東部地域療育センターの専門医による発達相談を月1回実施しており、発達に関する不安を受け止めたうえで、ひろばでの継続的な支援へつなげている。

様式1－2 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

1. 養育者に寄り添いながら信頼関係を築き、気軽に相談できる安心の場となっている。
- ・乳幼児健康診査や個別支援等の事業を通じて、必要な養育者へ拠点の相談機能を周知した。
- ・「陽だまりんの会」や「ダウン症のお子さんの親の会」には保健師も参加し、拠点とともに内容や今後の実施形態について検討を行った。
2. 多様化する相談に丁寧に対応し、内容に応じて関係機関と共有しながら養育者を支援している。
- ・子育て支援拠点の発達相談に入ったケースは、保護者の同意のもと、区の乳幼児健康診査や個別発達相談の状況、支援方針について共有し、必要な支援につなげている。
- ・区主催の子育て支援者向け・区民向けの「外遊び講座」には拠点スタッフも参加し、スキルアップに取り組んだ。
- ・スタッフミーティングでは拠点担当だけでなく、地区担当保健師も参加し、地区情報の共有を行った。地区別の特徴を理解し、拠点から遠い地域に住む親子へのアプローチを検討する機会となった。
- ・外国人の親子を含め、日ごろから広く子育て世帯に関わっている保健師が講師となり、外国につながる親子への対応についての研修を行った。外国人の親子と関わる際に工夫していることを紹介し合い、双方の学びとなつた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・相談事業を地域の関係機関に広く周知することで、親と子のつどいの広場やふらっとるーむ、鶴見国際交流ラウンジから拠点の利用につながった。
- ・発達相談では、拠点・区・関係機関の連携の流れができており、問題解決に向けて円滑に取り組むことができている。
- ・さまざまな不安や悩みを抱える保護者に対して、専門相談を効果的に活用することができた。
- ・就園前から関係性を築いていたことにより、就園後も継続して相談に対応できている。

(課題)

- ・多様な課題を抱える事例について、拠点と区が今後の対応方針を協議することで支援体制の強化と相談支援の質の向上を図る。
- ・就園の有無に関わらずあらゆる親子の相談の場として活用いただけるよう周知に努める。

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・拠点が子育て支援の情報集約、提供の中心であることが認知されるよう、さらに務める。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。	・地域の子育て支援に関わる多様なSNS情報を、効果的に発信できるような仕組みづくりを行う。	A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。	・関係機関と共に情報の多言語化について検討する。	B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

■ホームページ利用状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
アクセス数	40846	—*	58456
PV数	126396	—*	177515

*システム改修に伴い、集計不可

■SNSフォロワー数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
X	1214	1480	1516
Instagram	734	1002	1043

■令和6年度 わっくんひろばからのおたより配布件数

施設名	施設数
保育園・幼稚園（小規模・認可外含む）	140
ふらっとるーむ	32
ケアプラザ・地区センター	15
助産院・病院・療育センター	8
親と子のつどいの広場	5
主任児童委員・民生委員	5
社協・区社協	3
その他	12

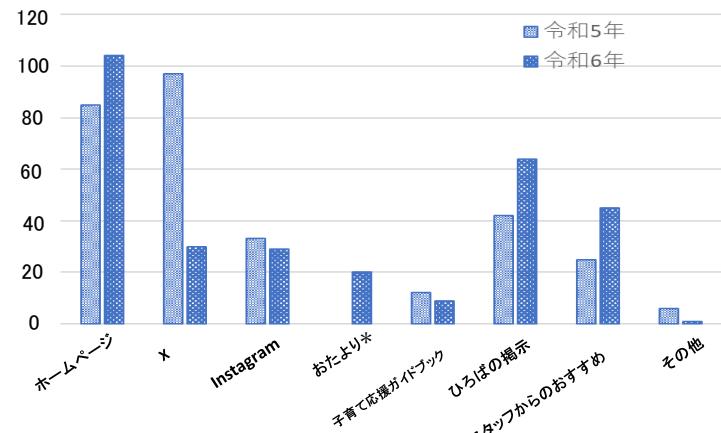
■令和6年度 区内イベント・ホームページ掲載数

	施設数	イベント件数
保育園	35	60
幼稚園		
ふらっとるーむ*	23	23
こども食堂	10	38
ケアプラザ	6	6
地区センター		
その他	8	8
合計	82	135

* つるみ・ふらっとるーむ子育て中のお母さんたちが「ふらっと」行ける居場所。令和6年時点で区内51か所。以下、ふらっとるーむと記載する。

■わっくんひろばからのおたよりを利用していますか？

単位:人



* 令和6年よりアンケート項目に追加

■わっくんひろばからのおたより 隔月（年6回）発行：7200部（令和6年度）

■子育てガイドブック 年1回発行：7000部（令和6年度）

1. ネットワークを活かし、情報収集・発信

○拠点ホームページの全面改修・運用

- ・区と連携し、スマートフォンからも見やすく、使いやすく、そして「自分に関係のある情報」がすぐに見つかるよう、ページ構成や導線を一から見直し、全面改修を実施した。
- ・地域情報の充実を図り、「ふらっとるーむ」や「子育てサークル」などの詳細ページを作成した。
- ・ホームページのふらっとるーむ紹介のページには、雰囲気が伝わるように訪問した写真を掲載した。
- ・地域別カレンダーを整備し、施設情報を収集・掲載することで地域情報の可視化を推進した。
- ・子育てに関する情報を目的ごとに探せるページを構築した。
- ・拠点イベント情報に加え、区内の他施設のイベント情報も随時更新した。
- ・拠点ホームページを分かりやすく案内する情報カードを作成し、PRに務めた。
- ・横浜市子育て応援アプリ・パマトコを用いてイベント情報の可視化を行い、オンラインでの申し込みをスムーズに行えるようにした。

○SNSを活用した情報発信

- ・X(旧Twitter)では拠点のイベント情報をタイムリーに情報提供した。

- ・Instagramではイベントの様子やネットワークの情報を発信した。

○乳幼児健康診査会場の情報整備・更新

- ・区と連携し、乳幼児健康診査会場内の情報掲示の整備、情報を随時更新・補充した。

- ・地区別の幼稚園情報(各園のパンフレット等)を新たに設置した。

○ニーズの高いテーマを踏まえてホームページの情報を充実させており、「つるPaPa(パパサークル)」や、 発達支援に関する地域活動、こども食堂に関するページを新たに追加した。

○区、NPO法人「つるみままっぷ」と共に子育てガイドブックを作成した。

- ・鶴見区子育てガイドブックの作成に際し、関係機関との情報調整を進める中で、各機関と連携・協力しながら地域の子育てを支えているネットワークの一翼を担っていることを相互に再認識する機会となった。

- ・より多くの養育者に届くように配布方法について検討した。

(ひろばで配布、出張ひろばで配布、妊婦向けイベントのワークで使用など)

○「わっくんひろばからのおたより」を隔月で発行し、イベントチラシと共に関係機関に送付している。その際に ネットワークからの情報も共に発送し、紙ベースでも幅広い発信を行っている。

○外国につながる利用者へ向けた「情報発信拠点」について区政推進課と共有し、配架資料の内容や配架方法 について検討した。

○幼稚園協会鶴見支部と連携して「幼稚園フェア」を開催し、掲示板やパンフレットによる情報発信に加え、幼稚園 教諭との直接対話の機会を設けることで、養育者に対する情報提供の充実を図った。

○出張ひろばにおいて、その地域のネットワークを活かした情報提供を行っている。

- ・近隣の保育園・幼稚園に呼びかけをし、育児イベント等の情報を届けてもらい、参加者に提供した。

- ・地域のつどいのひろばや地区センター、地域ケアプラザの方々に参加いただき、参加者と地域資源とをつなぐ
機会となった。

2. 拠点発信による包括的な情報提供

○ホームページの地域別カレンダーにより、関係機関が拠点を利用して情報発信できている。

○関係機関からの情報を効率的に収集する手段として、メール、SNSを導入している。

○新たな情報収集先を開拓するために、おたより発行時や関係機関訪問時にチラシを配布するなどして、情報 提供の呼びかけを行っている。

3. 拠点情報ツールによる情報共有

○関係機関(ケアプラザ・親と子のつどいの広場)が拠点の情報ツールを利用して、区民に情報提供している。

○市民活動団体の情報発信に協力しており、「つるみままっぷ」や「ウェルカムベビープロジェクト」などの事業に 対して積極的に連携・支援を行い、周知活動をサポートしている。

- ・養育者や担い手の協力を得て、ひろばでの情報発信を行っている。

- ・みんなのための掲示板で養育者や担い手からの情報を発信している。

- ・養育者からの情報などをもとに「夏のお出かけMAP」を掲示。

- ・子育てサークルをはじめとして養育者や担い手が、拠点の情報ツールやイベントを利用して情報を発信して
いる。

評価の理由(区)

- ・区役所に拠点や親と子のつどいの広場等の情報コーナーを設置した。幼稚園協会鶴見支部とのつながりもでき、幼稚園の情報コーナーも設置した。
- ・拠点と区で協働し、「鶴見区子育てガイドブック」の編集と発行を行っている。親と子のつどいの広場、(保育園、地域ケアプラザ、地区センター)等関係各所に配布した他、母子訪問、赤ちゃん会、乳幼児健康診査やこんにちは赤ちゃん訪問、転入者に配布する等、地域の子育て情報が必要な世代に届くように工夫している。
- ・子育て支援者定例会において、拠点の事業を周知している。
- ・拠点事業を担当者以外も把握できるよう、係内と必要時関連部署へ事業やイベントについて周知をした。
- ・拠点の職員が地域で情報を得て、拠点の情報を発信できるように、地域連絡会や関係機関への会議(地域保健福祉計画チーム会議)への参加を調整した。
- ・手軽に拠点の情報に繋がるように情報カードを拠点と一緒に作成し、窓口等で配布した。
- ・サークル交流会、ふらっとるーむ交流会、支え合いネットワーク会議、子育てネットワーク会議、地区別子育て関係者との連絡会において、各関係機関が企画するイベントを拠点がSNSで発信することができることを周知した。
- ・こども家庭センターの機能を活用し、新たにつながりができた地域のネットワーク(こどもの居場所連絡会)の中で情報発信の場を提供した。また、お互いが把握している地域情報を日ごろから共有している。
- ・こども家庭センターの活動の一環で子育て応援講演会を開催。講演会の中で子育て支援拠点などの活動を動画で紹介した。さらに、会場に地域の子育て応援活動紹介ブースを設置し、子育て支援拠点の役割についてパネルも展示了。
- ・虐待防止月間に区役所の区民ホールに子育て支援拠点の機能についてパネル展示を調整し、広く区民に関心を持ってもらう機会を作った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・利用者自身にかかわる情報がすぐに見つけられるよう、拠点ホームページの全面改修を実施した。アクセス数が増加し、利用者からも好評を得ている。
- ・XやInstagramを効果的に活用し、利用者がひろばの雰囲気やイベントの様子をイメージできるよう発信した。
- ・養育者のニーズをくみ取り、幼稚園協会鶴見支部と連携して幼稚園フェアを開催することで、養育者が必要としている情報をきめ細やかに届けることができた。

(課題)

- ・拠点ホームページに掲載している地域別カレンダーの内容について、利用者が必要な情報をわかりやすく伝えることができるよう、情報の選択や関係機関の調整を行う。
- ・養育者や担い手が、拠点の情報ツールやイベントを利用して情報発信ができるよう、拠点の役割をさらに伝えていく必要がある。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ ネットワークを活かして情報を収集し、養育者や担い手に提供しているか。
- オ 様々な子育て支援情報を拠点が集め、提供していることを広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・養育者が地域の子育て資源を有効に利用できるように、関係機関と拠点が相互に紹介しあえる関係づくりに努めいく。 ・今後も活動の現場で見えてきた課題や区が把握している課題を積極的に鶴見区子育て支援ネットワークへ届け、それを共有し解決に向けた取り組みを継続する。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつなげている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

■主催会議（毎年開催）

鶴見区子育て支援ネットワーク会議	31団体
つるみ子育て支え合いネットワーク会議 ※	17団体
つるみ・ふらっとるーむネットワーク会議	51団体所属

※令和7年度より「つるみ支え合いの会」に名称変更

■共催イベント

事業名	連携施設・団体
あつまれえがお	保育施設ネットワーク
プレママプレパパの会	各地域ケアプラザ
横浜子育てサポートシステム出張入会説明会	横浜市幼稚園協会鶴見区支部
幼稚園フェア	鶴見国際交流ラウンジ
つながりMAPイベント	つるみプレイパーク
水遊び	陽だまりんの会（極低出生体重児の会）
発達が気になる子を持つ親の会	済生会横浜市東部病院
たんぽぽの会（ダウン症児の親の会）	寺尾地域ケアプラザ、つるみ地域活動ホーム幹
ENDOCOフェスタ	ムゼット
ダンボールイベント（港北区・トレッサ横浜）	港北区、トレッサ横浜
映画上映会	つるみ子育て個育ちフォーラム運営委員会
工生麦こどもまつり	
リ駒岡こどもまつり	
ア矢向こどもまつり	
別矢向・江ヶ崎こどもフェスタ	矢向地区センター
クリスマス会	東寺尾地域ケアプラザ
クリスマス会	

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

I. ネットワークの構築と推進

○子育て支援ネットワークの構築と多様な支援体制の推進

・「鶴見区の親子のだれもが安心して過ごせる居場所を持ち、相談できる相手を持つ」を目標に、関係機関と拠点が互いに理解を深めてきた。地域の子育て支援活動のさらなる活性化のため、ネットワークの構築・推進に取り組んでいる。

・関係機関との情報共有や顔の見える関係づくりから着手し、区保健師との定期的な連絡調整・事例共有・研修会の実施を通じて、ネットワークの強化を図っている。また、拠点が主体となり、出張ひろばや子育てネットワーク会議等を活用しながら、身近な機関との連携を基盤に、区全体を見据えた協働体制の構築に向け、段階的にネットワークづくりを推進している。

・「子育て支援ネットワーク会議」を中心に、関係機関・団体との顔の見える関係づくりを進めるとともに、地域課題の共有と解決に向けた協働体制の構築に取り組んでいる。令和6年度は「外国につながる親子の子育て支援」をテーマに掲げ、言語や文化の違いによる支援の届きにくさを共有し、多様な視点からの意見交換を通じて、支援のあり方を検討した。

・ふらっとるーむ地区別連絡会や地域の子育て支援団体、サークル交流会等を開催し、地域活動やNPO活動が盛んな鶴見区の特性を活かしたネットワークづくりを段階的に進めている。

○「つるみ支え合いの会」への移行と連携強化による子育て支援の質向上

・「子育て支え合いネットワーク会議」は、令和7年度より「つるみ支え合いの会」と名称を改め、情報共有にとどまらず課題解決に向けた議論へと発展させるため、テーマを設定して意見交換を行い、支援のあり方を検討した。

・新設された親と子のつどいの広場2か所(Lico, coron)を加え、連携を強化した。

・各施設の運営状況や参加者数、実施イベントの内容に加え、一時預かりの実施状況や今後の予定についても情報共有を行った。一時預かりの需要の高まりについて共通認識を持った。

○つるみふらっとるーむネットワークの推進

・区内の子育てサロン「ふらっとるーむ」(51か所)の運営支援や情報交換を目的に、交流会を開催した。

・寺尾、馬場、駒岡、末吉の各地区で地区別連絡会を開催し、よりきめ細かな関係づくりに努めた。

・拠点スタッフがふらっとるーむを訪問し、運営上の課題把握や顔の見える関係づくりを行った。

・ふらっとるーむネットワーク交流会や地区別連絡会の開催により、地域の担い手同士がつながり、課題解決につながる道筋を区と共に検討した。参加者が継続的に利用できるよう、声掛けの仕方等について工夫点を共有した。地区別で実施することで支援者が仲間意識を持ち、悩みを共有できる場となった。

○地域連携による子ども向けイベントの企画・開催と相談支援の実施

・「つるみ子育て個育ちフォーラム運営委員会」に協力し、矢向こどもまつり、生麦こどもまつり、駒岡こどもまつり、映画上映会に参加。

・矢向地区センターとクリスマスイベントや矢向・江ヶ崎こどもフェスタを共催。

・東寺尾ケアプラザとクリスマス会を共催。

・区内保育施設ネットワークと連携し、地域子育てイベント「あつまれえがお」を共催。

「あつまれえがお」では、共催という形で相談・情報提供を行った。就園前の子育てに関する相談が多かった。

○地域ネットワークづくりのため、各地域との連携を深めた。

・寺尾地区子育て支援団体懇親会に参加。

・「てらおS☆MAP」連絡会に参加。

・潮田地区「子育てサロン交流会」に参加。

・市場第二地区あいねっと会議に参加。

・生麦地域ケアプラザとの情報交換会を実施。

・市場地区子育て支援連絡会を開催。

各地域との連携を深めたことにより、区保健師と協働して、必要だと思われる地域の連絡会開催につながった。

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

○公共の関係機関との連携を継続

・保健活動推進員、要保護児童対策地域協議会、主任児童委員連絡会、鶴見区地域福祉保健計画（あいねつと）推進委員会、第5期鶴見・あいねつと策定検討プロジェクトに参加。

・「鶴見区地域自立支援協議会」「鶴見区障害児関係機関連絡会」に参加。

○地域ケアプラザとの連携を強化

・地域交流コーディネーター連絡会に参加。

・拠点事業をケアプラザで開催（プレママプレパパの会、横浜子育てサポートシステム出張入会説明会、出張ひろばなど）。

○民間団体との連携を強化

・幼稚園協会鶴見区支部の園長会に参加し、幼稚園フェアを開催。

・国際交流ラウンジと連携し、外国につながる親子の支援を実施。「つながりMAP」交流イベントでは国際交流ラウンジのマップで紹介している施設に、利用者が遊びに行く活動を行っている。拠点には十数組が来訪し、拠点の利用登録につながった方もいた。

・港北区拠点と連携し、「ENDOCOフェスタ」や「ダンボールイベント」を開催。

2. ネットワークで広がる子育て支援

○ネットワークを活かした地域資源との連携と利用者の地域参加促進

・サークル交流会、サークルおしゃべり会、ふらっとるーむ会議を開催し、活動内容を把握した上で拠点利用者へ情報提供を行うとともに、参加者同士が互いの活動を知る機会となり、地域活動への参加促進や横のつながりの形成につながっている。

・地域の活動団体に協力し、共に活動することで、利用者が地域活動を知るきっかけを提供。共催イベントを通じて、NPOの活動に参加する養育者も見られている。

・出張ひろば事業では、ネットワークメンバーの協力を得て、養育者に向けて地域資源を紹介する機会を創出している。ネットワークメンバーと地域の方がつながる場を創出。

・つるみプレイパークと連携し、活動内容を紹介することで養育者の参加を促している。特に水遊びイベントでは、連携して実施したことで参加者が増加した。水遊びができる場が限られる中、親子がやりたいことを形にし、遊びを通じて子どもの育ちや養育者へのよい刺激につながっている。

○ピアサポートイベントにおける地域連携と継続支援への展開

・「陽だまりんの会（極低出生体重児の会）」では、ボランティアに対して地域開催を提案。

・「発達が気になる子の親の集い」では、同様の会を開催する地域ケアプラザと連携して周知活動を行い、連絡会を開催して情報交換を実施している。

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

1. ネットワークの構築と推進

- ・各種ネットワーク会議の内容や出席者の調整など、事前の打ち合わせで出席者の情報を確認するなど話し合いを行った。話し合いの中では、出席している地域の支援者の横のつながりができやすい工夫についてアイデアを出し合った。会議当日は講師やスタッフとして協働した。
- ・新たに設置されたことも家庭センターの機能を活用し、新たなつながりから「子どもの居場所連絡会」へ拠点も出席できるように調整した。
- ・ふらっとるーむ情報について、拠点との連絡会の場において、双方の情報を出し合い、情報を更新し続けた。

2. 拠点利用者を地域につなぐ

- ・サークル立ち上げ希望の養育者をサークル交流会に繋いだことにより、新規立ち上げに繋がった。他のサークル代表者との交流が、立ち上げの後押しとなった。立ち上げの準備の中で、拠点等と協力し会場や補助金などの情報を集め、養育者に情報提供した。立ち上げ後も役割分担しながらサークル活動を見守っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・連絡会やネットワーク会議を通じて、支援者同士の横のつながりができた。参加者からも、新たな情報や支援者との出会いを得られたという声をいただいた。
- ・課題や対応策を共有する中で、ネットワークの強化が進んだ。定期的な連絡調整や事例共有、研修の実施を通じて、区保健師との連携も深まっている。
- ・区内保育施設ネットワークや幼稚園協会鶴見区支部とのつながりを活かし、拠点の役割や事業内容について継続的に情報提供を行うことができている。

(課題)

- ・各種ネットワーク会議では、情報共有にとどまらず、課題解決に向けて意見交換できる場となるよう、会議の目的や進め方について検討する。また、会議開催後、拠点・区で丁寧に振り返りを行い、次回の会議に活かせるようにする。
- ・「支え合いの会」の更なる発展を目指し、幼稚園協会鶴見区支部への参加を促し、ネットワークの一層の拡充を検討していく。
- ・地域の自主訓練会とのつながりを強化できるよう、連携のあり方について検討する。

振り返りの視点

- ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。
- エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・コロナ禍で、活動が変化していく子育てサロン、子育てサークルなどの活動状況を隨時把握し、担い手たちのニーズに合った支援を継続する。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。	・拠点が当事者を支援するだけでなく、当事者自身が持てる力を活かして活躍する機会を共に作っていく。	B	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。	・	A	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。	・	A	B
評価の理由(法人)			
(主なデータ)			
■令和6年度 サークル支援		■令和6年度 ふらっとるーむ支援	
サークル訪問	12回	ふらっとるーむ訪問	32ヶ所
サークルフェア	10回（延べ16サークル参加）	ふらっとるーむ全体交流会	1回
サークルおしゃべり会	2回（延べ6サークル参加）	地区別ネットワーク会議	1回
サークル交流会	1回（5サークル参加）		
■令和6年度 学生受け入れ (ボランティア、見学・実習・総合的学習等)		■令和6年度 ボランティアが講師のイベント	
小中学生	33人	絵本の読み聞かせ	24回
高校生	3人	手遊びわらべうた	23回
専門学校生	10人	ちっちゃん読み聞かせ	12回
大学生	15人		
■令和6年度 利用者が講師となっている企画			
赤ちゃん体操とママストレッチ		10回（89人参加）	
栄養士相談		9回（74人参加）	

1. 再開した活動のサポートを強化

○ふらっとるーむ支援

・訪問を通じて担い手と顔の見える関係を築き、情報交換や課題の共有を行いながら、ネットワークづくりと活動の支援を進めた。

・担い手へのニーズ調査としてアンケートを実施し、課題や取り組み状況を共有できる場として「ふらっとるーむ地区別ネットワーク会議」の再開につなげた。

・「ふらっとるーむ地区別ネットワーク会議」(R5寺尾・馬場地区、R6寺尾・馬場・駒岡・末吉地区)を実施し、来所者の継続的な参加につながるよう、声掛けのコツなど他団体の取り組みを紹介、共有した。

・交流会の実施。支援者同士の情報共有や関係づくりが進んだ。

・訪問で地域の活動者とつながり、収集した情報を地域の支援者に提供している(3B体操講師、YAMABAN、紙芝居屋、丘の上のミニミニ図書館)

○食生活等改善推進委員(ヘルスマイト)支援

・「食育アドバイス講座」などのイベントの周知に協力している。

様式1－5 地域子育て支援拠点事業評価シート

2. ボランティア、子育てサークルから地域へつながる活動

○ボランティアの活動を強化

- ・区内高校等と連携して学生ボランティアを募集した。
- ・ひろばボランティア募集のチラシを見直し、掲示した。
- ・学生ボランティアは通年で募集(HPやSNS、ひろば他、地域に周知)、希望者には拠点イベントの講師や地域の支援者へつなぐようにしている。
- ・ボランティア証明書の発行を行ったため、参加者増加につながった。

○ボランティアが講師をしているイベントの継続

- ・「背守りの会」
- ・「絵本の読み聞かせ」
- ・「手遊びわらべ歌」
- ・「ちっちゃな読み聞かせ」

○養育者が活躍できる新規イベントの開拓

- ・「栄養士相談」元利用者が講師を務め好評を得ており、子育て中の食に関する不安の解消につながっている。
- ・「ベビーヨガとママストレッチ」利用者が講師を務めることで参加者の安心感や継続的なつながりづくりの場になっている。

○子育てサークル支援の強化

【活動支援】

- ・子育てサークルへアンケートを行い活動状況の把握や情報収集をすることで、今後の支援や連携の方向性を検討する手がかりとなった。
- ・新規サークルの立ち上げを支援し、伴走しながら活動の支援を行っている。
- ・サークル交流会やサークルおしゃべり会を開催し、相互理解やつながりづくりを促進した。
- ・希望する子育てサークルへの個別支援を行った。
- ・社会福祉協議会の協力を得て、子育てサークルの活動資金となる助成金説明会を実施。
- ・大型絵本やおもちゃの貸出を周知し、貸出を通じて活動の充実や運営への協力につなげている。

【周知協力】

- ・サークルフェアを開催し、活動内容の紹介や交流の機会を設けたことでメンバーの増加や新たなつながりの創出につながった。
- ・サークルを訪問し、Instagramやひろばで活動の様子を紹介することで認知度の向上や参加への関心を高める効果があった。
- ・子育て支援者にサークルの募集チラシを配布し、子育て支援者会場での周知を依頼した。

【サークル関係者を地域の活動へつなげるために】

- ・子育てサークルの代表に対し地域での意見交換会ワークショップ(「鶴見みらいトーク つながる・まなぶ 豊岡町複合施設を考える」)や子育て支援ネットワーク会議への参加を提案し活動の推進につなげた。

○子育て中の養育者が地域活動への参加を促す取り組み

- ・「これからわたしになりたい自分」をNPOつるみまつぶ、NPO茨と共に実施。親と子のつどいの広場代表をパネラーとして招き地域活動への想いを参加者と共に話し合った。次年度にはその参加者や拠点ボランティアがパネラーを務めるなど、想いが受け継がれている。

3. 子育てに寄り添う地域活動への協力

○「背守りの会」

- ・定期開催し、地域のボランティアと養育者や妊婦との交流ができている。

○企業研修の受け入れ

- ・子育てタクシー(ドライバー)研修を受け入れて、子育て中の親子との交流の機会を提供した。

○地域活動への参加

- ・町内会等のこども食堂(なまむぎこども食堂)に訪問し、養育者の現状や地域で見守ることの大切さを共有した。
- ・つるみ子育て個育ちフォーラムの子どもまつりに参加、子育て相談コーナーを設置した。

様式1－5 地域子育て支援拠点事業評価シート

4. これからの当事者に向けた学びの機会

○学生と親子のふれあい

・下野谷小学校6年生の総合的な学習の時間として拠点見学を実施し、子育て支援拠点の役割を伝えるとともに、親子とのふれ合いを通じて地域の子育てへの理解を深めてもらった。

・横浜市立東高等学校家庭科「ふれあい授業」に参加し、生徒と地域に住む親子との交流、学び合いの機会を創出した。

○学生ボランティアの受け入れ

・高校生のひろばボランティアを受け入れ、親子とのふれ合いを通じて地域理解や育児支援への関心を深めた。

○看護学生等の見学・研修を受け入れ

・子育て支援の現場理解を深めるとともに、実践的な知識や技能の習得につながっている。

評価の理由(区)

1. 子育て支援活動活性化のため、担い手をサポートする。

○ふらっとるーむへの支援

・年々利用者が減少傾向にある。保健師がふらっとるーむに出向き、運営している地域の支援者と一緒に活動の内容や工夫できることを検討し、拠点とも情報共有をした。ふらっとるーむの中には担い手が高齢化しており、チラシの作成や周知の難しさを感じているところもあったため、拠点がチラシの作成やSNSで活動の発信ができるなどを周知した。

・ふらっとるーむ交流会、地区別ふらっとるーむ会議を拠点とともに開催し、各ふらっとるーむの活動内容、活動における困りごとを共有した。支援者同士が顔の見える関係を作り、互いの活動を親子に紹介し合えるきっかけとなった。

2. 養育者へ地域活動の大切さを伝える。地域の活動に参加するきっかけを作る。

・赤ちゃん会に参加している保健活動推進員を紹介し、地域の人とのつながりの大切さを伝えている。

・赤ちゃん会の卒業者より新規サークルの立ち上げの相談があった際、区と拠点の両方から支援を行い、他のサークルと情報交換できる機会を作った。

・サークル交流会は区と拠点で開催した。サークル交流会に子育て支援者が参加できるように調整し、サークル参加者に子育て支援者を知ってもらうきっかけとなった。

3. 広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体の雰囲気づくり。

○広報の活用

・令和5年11月の広報よこはま鶴見区版では「子育てロードマップ」という題目で、それぞれの子育てのステージで相談できる場所やひろば等について紹介した。子育て支援拠点についても紹介し、子育て世代以外の市民にも周知する機会となった。

○子育てネットワーク会議の場を活用した取り組み

・幅広い関係者（国際交流ラウンジ、スポーツセンターなど）に向けて鶴見区の親子の子育ての現状を説明した。時代とともに変化した子育て世帯の状況を理解し、子育て家庭を温かく見守ることを協議した。

・外国につながりのある子どもたちをテーマに協議し、親子に向けてできる支援や関わりを共有し、支援者活動の向上の一助となる機会を設けた。

4. これからの当事者に向けた学びの機会

・学生ボランティアの活動について広報の工夫を拠点と検討した。

・こども家庭センターの取り組みの一環で、子育て応援講演会を開催した。子育て世代だけでなく、広く様々な層に鶴見区が子育ての応援に力を入れていること、鶴見区が子育てに優しい街を目指していることを発信した。講演会では、地域の子育て支援活動を紹介し、ブース展示も行った。子育て世代への応援だけでなく、子育てを応援する土壤づくりの一環として実施した。

様式1－5 地域子育て支援拠点事業評価シート

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ふらっとるーむへの支援では、ネットワークづくりの促進や他団体の取組の情報共有に努め、利用者が継続的に参加できるようサポート体制を強化した。
- ・子育て応援講演会において、拠点の機能や取組について動画やパネル展示で紹介することで、区民に広く周知するきっかけとなった。

(課題)

- ・食生活等改善推進員（ヘルスマイト）と連携し、利用者からのニーズの高い離乳食相談の場を提供する等、より発展的な活動や連携を検討する。
- ・利用者の得意なことを引き出せるよう、情報収集の仕方を工夫し、講師や支援者として活躍できる場を創造する。
- ・学生ボランティア確保のため、新規開拓に向けて取り組んでいく。

振り返りの視点

- ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- オ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- キ 子育て家庭（妊娠期の方を含む）を温かく見る気持ちを持つことができるよう働きかけているか。
- ク これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・ネットワークを活かした周知活動をさらに進めて、全会員の獲得に努める。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。	説明会をオンライン開催するなど、今後も利用しやすい仕組みづくりの構築に努める。	A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。	・会員の相談内容に応じ、区と他機関等と連携をし安心、安全な活動の提案をしていく。	A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A

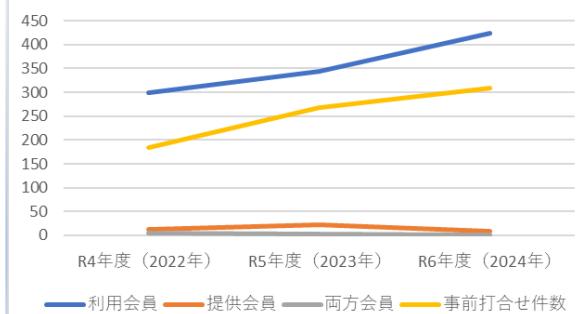
評価の理由(法人)

(主なデータ)

●会員数

	R4年度 (2022年)	R5年度 (2023年)	R6年度 (2024年)
利用会員	885	1013	1033
提供会員	124	122	112
両方会員	53	46	40
合計 (年間)	1062	1181	1185

会員登録数と事前打合せ件数

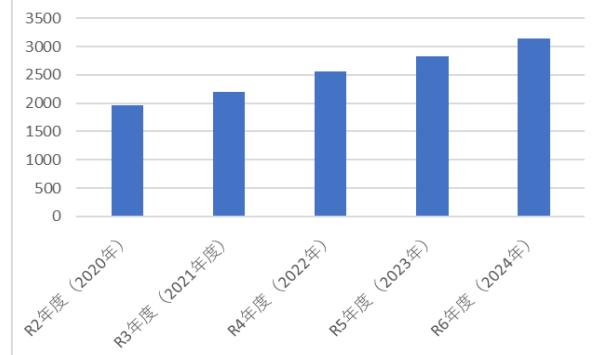


●入会説明会参加人数と会員登録者数

(上段：参加人数／下段：登録人数)

	R4年度 (2022年)	R5年度 (2023年)	R6年度 (2024年)
利用会員	332	398	376
	300	344	424
提供会員	9	47	26
	12	22	9
両方会員	2	10	5
	5	3	1

活動件数



※子サポdeあずかりおためし券(R5年7月1日より開始)

個別入会説明会実施回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度(2022年度)	16	8	16	12	6	9	11	8	8	11	3	16	124
R5年度(2023年度)	8	7	4	9	11	2	6	4	12	7	10	3	83
R6年度(2024年度)	9	7	7	6	6	8	1	8	12	12	8	6	90

出張入会説明会回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度(2022年度)		1		1			1	2	1	2	4	3	15
R5年度(2023年度)								3	3	5	7	3	21
R6年度(2024年度)		1	1	1	1			8		2	2		16

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

I.多くの区民の参画を得る

○様々な情報媒体(ホームページ、新システム(※1)の一斉メール、すぐーる、各イベントのチラシ配布、広報よこはま等)を利用し、子サポ事業の周知活動を行った。ネットワークを通じた周知も強化した。

<拠点内でのPR活動>

○子サポ通信の発送、拠点ホームページの掲載をした。

・わっくん子サポ通信(年3回発行、HP掲載)は、普段HPを見る習慣のない提供会員や両方会員向けに郵送での周知を行っている。

・拠点イベント(ベビーヨガママストレッチ、ベビーマッサージ、プレママプレパパの会、アラフォーママのおしゃべり会等)実施時やひろば来所時において、ひろばスタッフと協力し利用者に向けニーズに合わせPR活動を行った。

<ネットワークを通じたPR活動>

・区、子育てパートナーと連携協力し、赤ちゃん会や地域ケアプラザなどで利用者向けにPRをした。

・区民活動センターと連携し、工作教室やクリスマス会に出向き全会員向けの周知活動を行った。

・つるみ区子育て情報Naviを活用し、お知らせ等で情報発信をした。

・三ツ池フェスティバルと臨海フェスティバル、あつまれえがお、駒岡子どもまつり、矢向子どもまつり、生麦子どもまつりにて来場者に対し(入会説明会含む)全会員向けのPRを行った。

・地域ケアプラザにおいて、全会員向けの(主に利用会員)出張入会説明会を行った。

○様々な広報媒体(ホームページ、子サポ通信、パマトコ)を使用して、新規事業(※2)、新システムの周知を行った。

・スタッフを増員して、システム関係の研修を行い、新規事業、新システムの稼働に向け備えた。

・鶴見区独自資料を作成し、提供・両方会員向けに説明会を開催した。

・説明会に使用した資料をリニューアルし全提供・両方会員に郵送した。

・個別対応(電話、来所、訪問)を丁寧に実施した。(ログイン方法、更新手続き方法、不具合等の本部との対応等)

○提供・両方会員の増強を目指し、あらゆる場面(事前打合せ時チラシ配布、園長会、保育園、提供会員来所時等)において周知や登録の協力をお願いした。

・区と協力して区内の公立小中学校保護者向けに全会員向けのチラシを配布した。(鶴見区全公立小中学校)

・小学校卒業見込みのお子様を登録している利用会員に対し、提供会員になってもらえるよう声かけを行った。下に小学生のお子様がいる場合は対象外としているため、成果は小さいが、毎年引き続き声かけをしていく。年間10名程の利用会員に対して声かけを行っている。

・横浜市幼稚園協会鶴見区支部の園長会(13園)に参加し、横浜子育てサポートシステム事業について説明と両方会員獲得のための周知を行った。子育てパートナーと協力し、区内幼稚園に保護者向けチラシ、教職員向けチラシを配布しPRを行った。

・シニア世代に対し提供会員獲得に向けたアプローチとして保健活動推進員や民生・児童委員、町内会へ(新規事業を含めた)事業周知を行った。

・今後も地域ケアプラザや地域交流コーディネーターとの関わりを通じて人材確保に努めたい。

・昨年度から予定者研修の時間数が倍近くになった。eラーニングやDVDでの受講が可能となったが、PC等の受講環境を整える必要があり、登録完了までハードルが高いという意見がある。

・わっくんひろばにて幼稚園説明会を行った園(東寺尾幼稚園、桜ヶ丘幼稚園、三松幼稚園、双葉幼稚園、寺尾幼稚園)に対して、周知活動について説明し今後の連携についても共有している。

・予定者研修会開催に合わせ提供・両方会員に向け提供・両方会員大募集のチラシを一斉送信(メール)した。

※1 新システムとは:横浜市子育て応援アプリ パマトコ、横浜市地域子育て支援拠点サイト

※2 新事業とは:令和4年度 ひとり親家庭等支援事業、令和5年度 活動給付金、令和6年度 会員管理DX化(子育て支援拠点サイト、パマトコ)、事前打合せ有償化

様式1－6 地域子育て支援拠点事業評価シート

2. 養育者にとって必要な時に利用しやすい事業

○市の新規事業に関しての周知を強化した。

・ひろばスタッフと協力して子サポの活動紹介とともに新システムの説明を丁寧に行い、利用につなげた。

・「わっくん子サポ通信」に掲載し、周知した。

・子サポ全会員に向けたお知らせ(更新登録意向届出書、ネット更新のご案内、活動報告二次元コード等)を郵送した。

・既存の会員向けに新規事業の説明会を行った。システムに関する問い合わせに丁寧に対応した。

・提供・両方会員へは、給付金や活動支援金の請求方法を文書で送付し、拠点での説明会を設け参加者へ丁寧な説明を行った。その後も希望者には、電話や対面での対応を継続している。

○入会説明会の受け入れ人数と開催回数を増やし、利用に関してさらに詳しく説明をした。

・集団入会説明会の日程が合わない方、緊急時の方、配慮の必要な方(外国の方等)に向け、個別対応(場合によっては自宅へ訪問)の入会説明会を行っている。

・オンライン入会説明会を検討している。

○新規事業開始後は、提供会員に対し電話もしくは毎月の報告書の提出時に、市への請求書類の不備等記載内容を個別に確認している。場合によっては訪問説明も提案している。

3. 利用や活動をしやすいように支援する

○活動の依頼受付や事前打合せなどの際に会員からの聞き取りをし、コーディネートを行なっている。必要に応じて活動後のフォローも行っている。配慮の必要な活動に対してはより丁寧な相談、依頼を行った。

○会員からの情報提供については必要に応じ関係機関と協力し、その後のフォローを継続している。

○安全な活動のために、会員への啓発活動を強化した。

・「安全に活動いただくための留意点について」「活動時の個人情報の取り扱いについてのお願い」の文書を全会員に送付した。

・事務局が活動後に安全面等に不安を感じる情報を得た時は、スタッフが同行し安全の確認を会員と共にを行い、その活動に関して改善策等を提案している。

・事前打ち合わせの際に、個人情報取り扱いの注意喚起を行い、保管用ファイルを提供会員に渡し活動の安全対策を徹底した。

・令和6年度より緊急救命未受講者は活動が出来なくなるため、緊急救命講習参加を会員に対して丁寧に案内した。

・会員向け研修会として緊急救命講習会を開催した。講習後、講師を交えて情報交換会を開催し、安全に活動出来るよう交流をはかった。

・2才以下の子どもの事前打合せ時には、プレスチェックシートを活用して確認するようお願いしている。

○会員のスキルアップ研修会を開催した。

・講師を招き「発達に気になる親子との関わり」「鶴見区の現状と特徴等」を学んだ。

○事故発生時は、速やかに行政・法人に連絡をし適切な対応を検討した。個別対応等その後のフォローも行った。

・事故発生時には、迅速かつきめ細やかに区へ情報共有しており、利用・提供会員が安心して活動できる環境を整えている。

・普段から会員とのコミュニケーションを心がけ、速やかに報告していただけるよう努力している。

○提供・両方会員の区支部提出書類が大幅に削減されるなど事業の変化に伴い、会員同士の交流の場を増やし活動の意義を共有できる場を設け、活動を継続してもらうよう努めた。

○会員向け茶話会(年10回)を実施し、情報交換の場を提供した。会で全会員双方のおためし預かりの交流会の提案があった。実現に向け検討している。

○経験豊富な提供会員2名をサブリーダーとして委嘱し、緊急な依頼、対応に配慮を要する依頼等の際に中心となって活動をし、リーダー(コーディネーター)と綿密に連携を図り安心・安全な活動を支えている。

4. 子育て相談や他機関等の情報を提供し必要な支援につなげる

○拠点内のミーティングなどで、子育てパートナーやひろばスタッフとの連携をはかっている。

・必要に応じ、区と協力して会員に情報提供を行った。区と協力し配慮が必要な会員をサポートした。

・他区と連携をして、ひまわり学級送迎を希望する方(学校教員や利用者)に対して丁寧に説明を行った。

○研修会等の学びの場を通してスタッフのスキルアップを図り、利用者と接するあらゆる場面で状況を適切に見極めて対応できるように努力している。

研修会:(法人の定例会、女性労働協会の全国大会、要保護児童対策地域協議会鶴見区実務者会議 等)

○専門対応が必要と考えられる相談については、区と協力し対応した。

様式1－6 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)	
1.多くの区民の参画を得る	・母子健康手帳交付時や窓口における各種相談の中で丁寧に紹介している。また、母親教室や赤ちゃん会などの各種事業の実施時は周知を行った。また、広報よこはまに掲載し幅広く周知を行った。 ・「子サポdeあずかりおためし券」についても周知した。
2.養育者にとって必要な時に利用しやすい事業	・母子訪問や乳幼児健診などに子どもの預かりを必要としている養育者に、システムの利用方法を丁寧に説明し、利用につなげられるよう後押ししている。 ・入会説明会の実施方法について、安全に開催できるよう拠点と検討を行った。
3.利用や活動をしやすいように支援する	・個別に配慮が必要な家庭については、事前に情報共有を行い、入会時の説明会に同行するなど、提供時に混乱がないように配慮した。 ・対応について判断に迷うような事例があったときは、事務局から連絡があり、より良い支援と一緒に検討した。 ・事故発生時は事務局からの一報を受け、適切な対応を検討した。安全に安心して利用できるよう、今後の対応を検討した。
4.子育て相談や他機関等の情報を提供し必要な支援につなげる	・提供会員向けのスキルアップ研修に、区役所保健師が講師となり、鶴見区の現状を伝えた。 ・個別の対応が必要な事例については、区と拠点が情報共有し、必要な支援につなげている。

拠点事業としての成果と課題	
(成果)	・様々な広報媒体やネットワークを活用し、周知活動を強化することで、利用会員数の増加につながった。 ・事故予防の取り組みにより、大きな事故なく経過し、利用の安心につながっている。また、事故発生時には、迅速かつきめ細やかに区へ情報共有しており、利用・提供会員が安心して活動できる環境を整えている。 ・システム変更の対応において、会員の手続きを丁寧に行った。それにより、システム変更を理由とした提供会員の辞退を最小限に抑えることができた。
(課題)	・新規提供会員を獲得するため、今後も継続して周知活動を行うとともに、効果的なアプローチについて検討する。 ・地域の中で預かる・預けるという本来の助け合いの仕組みや目的を広げることを見据えて、今後も事業を促進させていく。促進の一環として、全会員を対象とした、おためし預かり交流会の実現に向けて取り組んでいく。

振り返りの視点	
ア	区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
イ	提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
ウ	就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。
エ	会員が相互の合意のもとに安心安全な活動できるよう、丁寧なコーディネートができているか。
オ	会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。
カ	活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。
キ	提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。
ク	会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
ケ	援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか(新たな事業の実施や事業の見直し)
コ	利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。
サ	専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・今後も、拠点内外での対応や連携の中で必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげる。	B	A
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。	・行政や関係機関の情報をタイムリーに利用者に伝え、区と利用者支援が連携しながら適切な対応に努める。	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	・行政や関係機関の情報をタイムリーに利用者に伝え、区と利用者支援が連携しながら適切な対応に努める。	A	B
☆妊娠期から子育て期まで、段階に応じた切れ目のない支援を行っている。	・行政や関係機関の情報をタイムリーに利用者に伝え、区と利用者支援が連携しながら適切な対応に努める。	A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

	わっくんひろば			サテライト			合計		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
周知活動	53	48	62	64	63	49	117	111	111
研修参加	14	7	5	7	4	3	21	11	8
出張相談	105	148	30	9	48	27	114	196	57
電話相談	46	37	25	0	2	11	46	39	36
面接相談	361	260	183	166	433	162	527	693	345

※R6年度より、横浜市のシステム変更があり、集計方法を見直した。

■周知先・関係機関一覧

・区 両親教室・赤ちゃん会
・子育て支援者会場・子育て支援者
・こんにちは赤ちゃん訪問員
・保健活動推進員
・親と子のつどいの広場
・ふらっとるーむ (アソビviva!末吉/寺尾・荒立 じゃんけんポン・あそびにおいてよ 他)
・白幡公園ログハウス
・鶴見区 各地域ケアプラザ・地区センター
・発達の会 (ゆうづる)
・地域子育てイベント あつまれえがお 参加各保育園
・トレッサ横浜
・鶴見区支部 各幼稚園
・認定こども園
・横浜市東部地域療育センター 相談ルーム いろは
・鶴見区社会福祉協議会
・乳幼児一時預かり事業まっこひろば
・ク 実遊保育園
・鶴見区国際交流ラウンジ
・児童家庭支援センター つるみらい
・つるみ子育て個育ちフォーラム (駒岡まつりなど)
・つるみ地域活動ホーム 幹おもちゃ文庫
・東部病院NICU 看護師・理学療法士
・児童発達支援事業
・企業型保育園 しょうじゅの里
・NPO法人つるみまつぶ
・横浜ラポール (港北区)
・鶴見大学
・横浜市立東高等学校

■出席した主な会議・連絡会

・子育て支援ネットワーク会議
・子育て支え合いネットワーク会議
・鶴見ふらっとるーむネットワーク会議
・母子保健コーディネーターとの連絡会
・子育て支援者定例会
・地域子育てイベントあつまれえがお会議
・トレッサ横浜相談会 振り返り会議
・つるみ子育て個育ちフォーラム
・横浜子育てパートナー連絡会・ブロック会議
・東部病院NICUとの会議
・要保護児童対策地域協議会 (生麦・上の宮エリア・ 市場など)
・発達が気になる親の連絡会 (寺尾)
・幼稚園 鶴見区支部 園長会
・保育園との地域連絡会議
・地区連絡会 (市場・生麦・てらおS☆MAP)

■地域開催プレママプレパパ会一覧

・令和 4年
11月 親と子のつどいのひろばkitch (キッヂュ)
12月 ク coron (ころん)
・令和 5年
1月 駒岡地域ケアプラザ
2月 親と子のつどいのひろば はなはなひろば
11月 鶴見市場地域ケアプラザ ゆうづる
・令和 6年
2月 鶴見中央地域ケアプラザ
矢向地域ケアプラザ
6月 鶴見中央地域ケアプラザ
7月 鶴見市場地域ケアプラザ ゆうづる
8月 生麦地域ケアプラザ
9月 矢向地域ケアプラザ

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

1.周知活動の実施と情報発信の強化

- 養育者や妊婦とその家族に向けた周知活動を行った。
 - ・改修したホームページに、横浜子育てパートナーのページを設けてわかりやすい周知に努めた。
 - ・拠点システムの相談予約に直接つながる「予約フォーム」を作成した。
 - ・拠点のおたよりに横浜子育てパートナーの出張先を掲載し、地域での活動について周知した。
 - ・拠点のイベント、初来所説明において周知を行った。
 - ・地域に出向いての周知活動を強化している。
- ネットワーク事業に参加し、周知活動を行っている。
- 人材育成事業で橋渡し役を担っている。
 - ・拠点に来た実習生や学生のフォローに努めた。
 - ・横浜市立東高等学校家庭科の「ふれあい授業」に参加した。先輩親子として参加する協力者を募り、当日も親子が安心して過ごせるようにサポートした。

2.子育て支援と相談対応の質の向上を目指した取り組み

- 相談を受ける時は、話しやすい環境を作り、相談者のニーズとペースに合わせて傾聴に努めている。
 - ・相談者を関係機関へ案内・仲介した後も、ひろばスタッフや横浜子育てサポートシステムと連携して、再び拠点に来所しやすいような雰囲気作りをし、継続的なフォローに努めている。
 - ・専門的な対応が必要な養育者については、ニーズを丁寧に傾聴した上で区や関係機関と共有し、対応方法について検討した。
- 個別ケースについてひろばスタッフと振り返りを行っている。
 - ・多角的な視点から支援方針を検討することが、相談対応の質向上につながっている。
- ネットワークを利用して、最新情報の収集と提供に努めた。
 - ・養育者の身近な地域でそれぞれのニーズにあった情報提供ができるよう、地域に出向いて情報収集に努めた。
 - ・情報ファイルをカテゴリー別に分け、情報の更新を行い、ひろばスタッフを含めた全職員が適切な情報を提供できるようになった。
 - ・情報を提供した後も利用者が安心して支援を受けられるように、地域資源や関係機関と協力して丁寧な対応を行っている。
- 拠点から遠い地域では、出張相談を実施した。
 - ・ふらっとるーむや親と子のつどいの広場、トレッサ横浜（月1回）で出張相談会を開催した。
 - ・地域子育てイベント「あつまれえがお」（5カ所）では企画から参加し、保育園と共同し、相談対応ブースを担当した。また、近隣の関係機関の子育て情報を収集し、周知に努めた。
- 陽だまりんの会（極低出生体重児の会）・発達が気になる子の親の集い・たんぽぽの会（ダウン症のお子さんのママのおしゃべり会）等のピアサポートイベントを継続的に実施している。
 - ・地域の関係機関やボランティアの協力を得て、ニーズに合った情報を提供し、必要な場合は個別相談につなげている。
- 研修に参加し相談対応のスキルアップに努めている。
 - ・法人研修をはじめ、外部研修等各種研修を活用している。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

3. 地域との顔の見える関係づくりとネットワーク構築、ニーズに応じたイベントの実施

○地域との顔の見える関係づくりを行った。

・出張相談、周知活動などで訪問した際に担当者と地域の現況、困りごとなどについて情報交換を行った。

・横浜市幼稚園協会鶴見区支部園長会に参加し、拠点、利用者支援事業の周知を行い、新たなネットワークを構築することができた。

・拠点のネットワーク会議に参加し、現況を報告し、新たな連携方法を検討した。

・地域のネットワーク会議に参加し、現状を報告するとともに必要な資源について情報交換した。

・地域に出向いた際、区内新規託児所等から周知について相談があり、まつやつるみ子育てガイドブックへの掲載を提案し、関係機関へつなぎ、掲載に至った。

・鶴見区民が利用する他区コミュニティハウス等を訪問し、情報収集と提供を行った。

○相談対応においてニーズの高い内容について、地域の関係機関と共に新たな事業を検討し、実施した。

・幼稚園の情報が利用者に届いていないという日頃の相談等から、入園に関しての養育者の悩みを園長会で共有した。他区の取り組みを園長に伝え、自区でできることを検討し、拠点での幼稚園フェアを企画・実施した。

・ひとり親家庭が多いという地域特性をふまえ、拠点に足を運ぶきっかけとなるようなイベントを検討した。ひとり親の交流のために、ひとり親サポートよこはまと連携し、シングルママのおしゃべりカフェの開催を企画した。

・東部地域療育センター相談ルーム「いろは」と協力し、養育者向け講座の開催を検討している。

・ホームページに「発達が気になる子の保護者」のページを追加した。

・東部病院NICUと連携し、「陽だまりんの会（極低出生体重児の会）」に看護師や理学療法士の参加を働きかけ、参加者により良い情報提供ができるようになった。同会のボランティアには、新たな形での地域開催を提案した。

・東部病院NICUを訪問し、看護師、理学療法士に向けて勉強会を行い、拠点の役割や利用者支援事業について周知した。

・母子保健コーディネーターとの連絡会から、プレパパに対する支援を強化する必要があると共通理解を図った。日頃の地域連携の中から、拠点とYMCAつるみ保育園でできることを検討し、男性保育士協力のもと「プレパパと先輩パパとの交流会」を企画、実施した。

☆ 妊娠期からの支援による、産後の拠点利用と相談へのつながりを創出

○プレママプレパパの会を月2回実施している。

・産前産後に必要な情報の提供に努めた。情報はニーズを検討しながら随時更新している。

・地域ケアプラザで開催することができた。

・母子保健コーディネーターと産後すぐろくの内容を見直し、男性の産後うつが増えている実態を踏まえ、更新を行った。

○「プレママと先輩ママのおしゃべり会」を実施している。

・マタニティストレッチ、調乳体験、育児グッズの展示、先輩ママとの交流を通して産後の生活へのイメージ作りを行った。

○「プレパパと先輩パパの交流会」を実施している。

○個別沐浴体験も随時受入れ、産前の不安に寄り添いながら対応し、必要な情報提供を行った。

○区の両親教室での周知活動では、拠点の情報をわかりやすく伝えるための工夫を行った。

○他区の取り組み「産前産後のおうち」の報告会に参加し、情報交換を行った。

○妊娠期から配慮が必要な利用者に向けて、拠点利用者から提供いただいた赤ちゃん向けの衣服やミルク、おむつなど、必要に応じて渡している。

○母子保健コーディネーターとの連絡会に参加し、情報共有している。個別ケースについては、母子保健コーディネーターと密に連携を取り、きめ細かく対応し、必要な支援につながっている。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)
1. 周知と情報発信
・関係機関の会議や赤ちゃん会などの事業において、子育てパートナーや拠点職員が周知のために参加できるよう調整した。子育て支援に関わる方々には認知されており、紹介につながることも増えている。
2. 寄り添った個別支援
・丁寧な引き継ぎが必要なケースや気になるケースなどは、子育てパートナーから直接、地区担当保健師に連絡が入る。情報提供を受けて必要な支援につながっている。
・プレママ・プレパパ会において気になる利用者がいたときは、母子保健コーディネーターへ情報提供があるため、その後の支援に活かしている。
3. 関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくり
・子育て支援者やこんにちは赤ちゃん訪問員などの定例会出席を調整している。子育てパートナーが、子育て支援者や訪問員と顔が見える関係作りができるようになっている。地域情報の共有だけでなく、課題の共有や支援のあり方について共通認識を深め、そこから新たな資源の創出についてアイデアを出していくことが今後の課題。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

【幼稚園フェアの開催】

- ・利用者のニーズの高い幼稚園情報収集のため、幼稚園鶴見区支部と繋がり、情報を知りたい利用者側と情報を周知したい幼稚園側の橋渡し役となることができた。

【NICUとの連携】

- ・「陽だまりんの会（極低出生体重児）」の参加者が増加し、拠点利用のきっかけとなった。

【プレパパへの支援】

- ・「プレパパと先輩パパの交流会」の開催によって参加者の同士の交流につながった。先輩パパからの経験談によりプレパパの不安の軽減、また妊婦体験ジャケットの着用を行い、実際の重さや動きにくさを知ることで、妊婦に対する理解と共感が深まったとの声を聞く事ができた。

(課題)

- ・幼稚園保育園に入園した後も、相談先としてわっくんひろばの存在の周知をするための仕組みを考えていく。
- ・スタッフミーティングで事例検討を行い、その後の利用者の様子を知ることで、今後の支援に繋げていく。
- ・区役所のこども家庭センター機能（社会資源の情報集約、開発）と連携し、学齢期に向けて切れ目のない支援を目指し、未就学児支援の情報整理を検討していく。
- ・妊娠期からの早期支援を強化し、安心して出産・育児ができるような支援体制の整備を進める。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内でパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内でつなぎ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。
- カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。
- キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。
- ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できしたことや認識に違いがあったこと】

- ・毎月の定例会および、日々のやりとりの中から拠点と区の連携が進展したことにより、区の現状を共有することができ、次年度に向けた方向性や計画立案につながった。
- ・拠点と区の活動を通じて得られた地域の声を共有しそれを踏まえた意見交換を重ねることで、地域の課題やニーズに即した計画となるように企画へ反映させた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・アンケートや統計データの分析結果を、拠点と区で共有しながら目標設定と計画立案につなげていく。
- ・学齢期に向けた切れ目のない支援を視野にいれ、情報収集等に取り組む必要がある。これまでの妊娠期から乳幼児期にかけての取り組みを基盤として、支援の継続性を高めていく。

2 事業実施段階

【共有できしたことや認識に違いがあったこと】

- ・拠点の7事業について、協働協定書に基づき、目標や課題、方向性を共有しながら実施することができた。
- ・妊娠期への支援と地域とのネットワークづくりの重点目標について、目的や実施方法について適宜共有しながら、区内各地で実施を強化した。
- ・多様な区民が情報収集できるよう連携し、効果的な周知を実施することができた。
- ・子育てサポートシステムにおいて、提供会員の獲得や維持が重要であると同時に困難な課題であるという認識を共有しており、引き続き工夫を重ねながら取り組む必要がある。

【今後改善が必要と思われること】

- ・拠点事業が機能的に実施できるよう、拠点と区の強みを生かしながら、よりさまざまな関係機関との連携を強化していく。
- ・区と拠点が意見交換できる機会を増やし、事業の方向性や見通しを共有し、支援の充実を図る。
- ・時代の流れや社会情勢に合わせた子育てニーズを把握した上で、拠点と区それぞれの役割を共有し、今後の支援に生かす。

3 事業の振り返り段階

【共有できしたことや認識に違いがあったこと】

- ・定例会や各年の振り返りの積み重ねを基盤としながら、今回の4期中間振り返りを進めていく中で、それぞれの目指す方向や、細部にわたる認識の確認ができた。活発な意見交換を通じて、協働の進め方や相互の強みに対する理解が深まった。
- ・協働の重要性を意識しながら、それぞれの得意分野を活かした取り組みが、地域の子育てネットワークの強化につながっていることを共有できた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・事業実施中に共有しきれなかった考え方や方向性については、事業終了後の振り返りの中で丁寧に整理し、課題の抽出に活かすことで、今後の方針性や計画につなげていく。
- ・子育てを取り巻く環境の変化や社会情勢に対応できるよう拠点と区で情報を共有し、7事業を複合的に機能させ相互に協力して新たな取り組みを考案していく。

鶴見区地域子育て支援拠点事業 有識者を交えた事業評価 実施概要

対象事業	鶴見区地域子育て支援拠点
対象期間	令和5年度～令和7年度(3か年度)
事業の実施者	社会福祉法人青い鳥
	鶴見区こども家庭支援課
実施目的	<p>1 これまでの3か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理するために実施するものです。</p> <p>2 市民協働事業の成果を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等への協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めていくために実施するものです。</p>
振り返りの視点	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」に、その後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <p>【参考】拠点の7事業</p> <p>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</p>
実施時期	令和7年4月～令和7年9月
実施方法	<p>1 拠点の7事業の「目指す拠点の姿」に対して、区及び運営法人それぞれの自己振り返りを実施しました。(令和7年4月～6月)</p> <p>【参考】地域子育て支援拠点事業評価シート 4段階自己評価の意味 A よくできた／B できた／C あまりできなかった／D まったくできなかった</p> <p>2 それぞれの自己振り返りをもとに、両者で内容を確認し、意見交換しながら相互振り返りを実施しました。(令和7年5月～7月 計8回)</p> <p>3 相互振り返りをもとに、拠点事業に造詣の深い有識者を交えて、「鶴見区地域子育て支援拠点事業 有識者を交えた事業評価(相互評価のまとめ)」を実施しました。(令和7年9月1日)。</p> <p>※振り返りに際しては、第3者の意見等も反映させるため、拠点利用者や区の乳幼児健診等を対象に実施した子育てアンケートの声も踏まえて実施しています。</p>